

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200248		
法人名	社会福祉法人 和福祉会		
事業所名	グループホーム庄の里「なごみの家」(ユニット共通)		
所在地	倉敷市西尾11-1		
自己評価作成日	平成29年2月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyu_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3390200248-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13番1号 県総合福祉・ボランティア・NPO会館		
訪問調査日	平成29年2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設理念である、元気な挨拶、明るい笑顔、丁寧な仕事を念頭におき、明るく楽しい家庭的な雰囲気作りと、入居者個々の自分らしい生活を大切にしていけるよう、心がけております。サービス計画に「心を元気にするメニュー」を取り入れ、その方の尊厳を大切にしながら、心をこめて支援していくことを運営の基本としております。「なごみの家」で入居者全員が役割をもって楽しく、張りのある毎日が過ごせるよう、個々の思いに寄り添い支援しております。また、家族や大切な人との交流や地域とのつながりが持てるよう、四季折々に個別やユニットでの外出行事、年間行事を充実させております。入居者ひとりひとりが心身ともに元気でいられるよう、関わりを多くもち、安心・満足・信頼が持てる時間、「心のケア」を目指しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設10年目を歩んでいるホームであるが、この1年間「心を元気にするメニュー」の一つとして、10分間ケアに取り組んできた。一日の中で10分～15分、一対一でじっくり接する事で個々の関わりがすごく密になってきた。どの職員も利用者の心を知るコミュニケーションが出来るように意識を高めていく努力をしている。ホーム長にとってこれまでの大きな課題であった「ホームでの看取り」もH29年2月に初めて経験する事が出来た。人生の最期のステージを本人・家族と共有し、故人の好きだった音楽を流して、きちんとしたケアをして見送ることが出来た事は、職員にとっても貴重な体験であった。看取りのプロセスを詳細に残した記録は職員の今後の指標となっている。新規入所の人とも出来る限り早い段階で本人をよく知り、馴染みの関係を築いていけるよう取り組んでいる。法人の中では独自性を保っているホームだが、若い世代の職員のモチベーションをどう保っていくか、人材育成にも力を入れており、全職員のスキルアップを目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念をスタッフルームに掲示し、全体会議、ユニット会議等の時に再確認し、業務に取り込み、実践している。	理念の「明るい笑顔・元気な挨拶・丁寧な仕事」を職員は日々、意識しながら実践に努めている。開設10年目を迎え、この1年は特に「心を元気にするケア」に取り組み、個々の関わりを密に、利用者が何を求めているのかを常に利用者本位で考えながら支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	山地こども会との交流会を計画したり、秋祭りや散歩の時等地域の方との交流をしている。近所の方が週1回ボランティアに来られ、畑の手入れや入居者の話相手になってくださっている。	こども会との交流も2年目を迎え定着してきた。保育園児との交流は恒例行事になっており毎年芋掘り等を楽しんでいる。今年度は家族の好意でプロによるチェロの演奏会を開きとても好評だった。散髪ボランティアの訪問もあり、地域交流も年々幅を拡げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域の行事に参加し、なごみの家を知っていただいている。また広報誌やホームページで情報を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、「なごみの家」の活動状況や入居者の日常の様子を伝え、様々な助言をいただいている。畑の話題や、災害時の緊急避難場所など、地域に密着した内容の他にも、事件事故や体調管理方法など多岐にわたり話題が充実している。	定期的に開催している会議は、地域の多彩なメンバーで構成され、毎回違う一組の利用者とその家族が参加しているのが特徴でもある。写真によるスライドショーで行事や活動報告をし、水害についての災害対策等も話し合っている。議事録は職員間で共有し、家族にも送付している。	運営推進会議では様々な課題を取り上げ参加者と有意義な会議をしているので、今後はヒヤリ・ハット事例を取り上げてみるのもよいと思う。安全と事故(リスク)は常に裏表だと思うので、リスク面も話し合ってみて欲しい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で民生委員・土木委員・地域包括支援センターの方に参加していただき、事業所の取り組み等を伝えている。より伝わりやすい方法として写真をスライドショーで流すことを取り入れた。	市の指導監査課に、ホームの運営についてや胃ろう・喀痰吸引等の医療面について相談し、助言や指導をしてもらっている。運営推進会議にも毎回、地域包括職員の参加があるので、情報提供もしてもらえ、良い連携を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新人・中途研修、施設内研修で身体拘束について勉強会を行なっている。またマニュアルを作成し、事業所内にいつでも観覧できるように置くとともに、事業所内の全体会議でも身体拘束について研修をおこなっている。	安全対策の為玄関の施錠はしているが、帰宅願望についてもその起因を探求し対応策を職員間で話し合っている。身体拘束は勿論の事、「ちょっと待って」等の言葉が、何が対象になるのかスピーチロックについてもよく話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新人・中途研修、施設内研修で身体拘束・虐待防止について勉強会を行なっている。また高齢者虐待防止に関する資料を事業所内にいつでも観覧できるように置いている。事業所内で研修もおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新人・中途研修・施設内研修で権利擁護等について勉強会を行なっている。契約後も分からない事等いつでも相談に応じている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、十分な説明を行い、納得していただいた上で署名を行っていただいている。契約後もいつでも質問等に応じている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の要望や意見を述べやすいように、玄関に意見箱を設置している。連絡表と共に意見・要望用紙を送付したり、面会時にもご家族からご意見をいただけるよう声かけを行っている。満足度アンケートも実施している。	毎月家族に送付している連絡表には、写真を掲載し担当者から生活の様子を記載している。面会時には家族としっかり話し合うようにしており、年1回実施している満足度アンケートでは、家族から利用者の食事の量についての要望があった。いただいた意見・要望は運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議に理事長・管理者は参加し、事前に職員の意見や要望を議題に上げて、質問に答え、業務にも反映させている。	若い世代の職員の教育に力を入れ、人材育成に取り組んでいると聞いている。課題である職員体制の充実も上層部に進言中である。職員の異動も少なく定着率が良いので、管理者・ユニットリーダーを中心に職員の連携もよく取れている。夜勤専従者が3名いるのも嬉しい。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標シートを活用し、個人目標を立て、その達成度を賞与に反映させている。また、勤務態度や実績についても評価し、賞与等に反映されている。その他、必要時には随時、職員との面談も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修を受け、資料を職員全員に回覧し周知している。又、個別に希望を取り入れ研修に参加できるよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設外研修や外部との交流の場に参加し、情報交換を行なっている。また他事業所の運営推進会議にも出席し、同業者や地域とのネットワークを広げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に入居者の情報を職員間で共有している。環境(場所や対人関係)が変わること で不穏にならないよう、コミュニケーションの場を増やし、馴染みの関係になるように尽くしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前、入所時にも家族や本人の思いや要望、不安に思うこと等をお聞きし、それをケアプランや処遇に反映させ、支援を行なっている。また入所後には状態の変化にともない、ユニット会議でプランの見直しを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前、入所時に家族や本人の思いや要望、不安に思うこと等をお聞きし、それに沿ったケアプランや処遇を検討し、実践している。またさまざまな角度から必要な支援を検討し、提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の立場に立った考え方、心に寄り添ったケアを行うように努め、家族として皆で協力し助け合い、ひとりひとりが生きがいを感じ、心地よい居場所であるよう関係作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との絆を大切にす為、毎月家族に入居者の様子を写真入りの連絡表で伝えている。また行事への参加のお願いや、入居者から要望があったり、遠方にいる家族からプレゼントが届いた時等に御礼の電話をかけたりと、家族と入居者のつながりを大事にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの友達やご近所の方、ご家族が気楽に面会に来られ、交流を図れる場を設けている。また、個別で外出や外食にも出かけ、地域やご家族とのつながりを持つ機会を作っている。	利用者同士が以前からの顔馴染みの人もいれば、入居していたケアハウスの友人と外食に出かける人や法人の夏祭りでは友人と同じテーブル、昔馴染みと共に等、それぞれ交流をしてもらっている。面会や外出・外泊など家族との絆を深めてもらう支援もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、穏やかな空間になるようフロアでの席も配慮している。また入居者が興味があることを、関わりの中から見つけ、職員が間に入り入居者同士のつながりができるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も面会に行ったり、いつでも電話等でご家族が相談でき、安心できるように体制を整えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴等や本人、ご家族とのコミュニケーションの中から、本人の意向や思いを知り、支援内容を提示し実行している。個別で裁縫、知能レク、外出、外食等を取り入れている。また、入居者とじっくり関わる時間も以前より更に積極的にとっている。	昼食後の1時間をお昼寝タイムとしているが、起きている人とはじっくり接する時間にして、10分間ケアを一对一で行う事が定着してきた。個々の思いに寄り添いながら得た意向や希望、情報は職員間で共有している。	昨年度この項目で提案した10分間ケアを実践して、職員間でよく話し合い業務改善にも活かしている。今後も継続して、職員のコミュニケーション能力を高める努力をして下さい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所にあたり、ご家族や入居者とのコミュニケーションを通し、その人らしく、いきいきとした生活ができるための支援内容を検討し、実施している。他事業所と情報の共有も行い、参考にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の立場に立つた考え方、寄り添うケアを行うように努めている。言葉、行動などから、思いを理解し、記録に残し、問題点はユニット会議で話し合い、心を元気にする職員の統一したケアができるよう、情報の共有を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議等で気づきを出し合い、介護計画に反映させている。モニタリングにより、介護計画の見直しを行い、より良い生活が送れるように支援し、結果を記録に残し活用している。	ケア記録には短期・長期目標のチェック項目があり、早出・遅出・夜勤の各職員が気づき・特記事項を記入する欄もある。6ヶ月毎のモニタリングやカンファレンスをして職員間で話し合いながらケアプランを作成し、状態の変化に合わせて随時見直しもしている。	日々のケア記録のチェック項目は必要であり特記事項は把握しやすいが、職員の毎日の仕事量の多さを考えると、焦点を絞った記載内容にする等、記録の簡素化を考えてはどうかと思う。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録用紙に、長期目標、短期目標も記載し、日々意識できるよう、様式を変更した。それにより、ケアの実践に結びついている。また定期的にカンファレンスを行い、介護計画につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者や家族の思いや介護のニーズを引き出し、カンファレンスにより、その思いを職員間で共有し、添えるように援助している。ユニットごとの外出だけでなく、個別外出も多く取り入れている。また、看取りケアの対応にも取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の外出する機会を増やし、地域資源を利用し、入居者と地域の方との交流を大切にしている。施設開催の夏祭りや、地域の秋祭りにも参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	365日24時間対応の協力医療機関と契約している。体調不良時等すぐに連絡がとれて、入居者やご家族、職員も安心できている。ご本人、ご家族の希望により、かかりつけ医を選択して頂き、受診時に手紙にて様子を伝えている。	協力医の往診が月2回あり、緊急時にもオンコール体制で医療と介護の連携がしっかりとれている。職員にはベテランの看護師もおり、日頃の健康管理はもちろんの事、医療面での相談も出来、本人・職員も安心できる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	怪我や事故があった際には、必ず医師及び看護師に連絡し、指示を仰いでいる。状態によっては、看護師から協力医療機関に連絡し、往診を依頼している。また、体調管理を行う中での注意事項など、情報を共有し、職員の知識のスキルアップにもつないでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した時には面会に行き、症状や様子について、病院関係者、家族から、情報収集を行なう。退院前には、主治医、ソーシャルワーカーと連携をとり、カンファレンスを行い、ホームで対応できるように体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における、看取り指針に沿って家族に説明を行い、随時体調の管理を行なう。体調に変化がある時は、主治医、職員、家族で話し合いをし、今後の方針を決定している。看取りを希望された方には、穏やかな最期を迎えられるよう、職員全員で支援している。	最近、職員にとっては初体験といえる看取りを行なった。医師、家族ともよく話し合い余計な医療は施さず自然な形での最期だった。職員もその人の人生の最期を共有し、故人の好きだった音楽を流して見送った。ターミナルのプロセスの記録は詳細で職員の今後のケアに大いに役立っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入社時や施設内研修で、事故発生時の対応については、研修を行なっている。又、事務室内にマニュアルを常備し、職員が何時でも閲覧できる状態にしている。看護師中心に全体会議やユニット会議で、対応方法の確認をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回(昼・夜想定、避難・誘導訓練、水消火器による消火訓練を入居者も参加して実施している。消防署、防災会社の方にも協力して頂き、通報訓練も行っている。	日中・夜間想定避難訓練をしており、運営推進会議でも水害対策や避難場所の確認等の災害対策を話し合っている。実施報告書は職員間で回覧して共有している。ホーム内にAEDを設置して、救命救急に即対応できるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩である入居者の人格を尊重し、一人一人に合ったケアを実践し、羞恥心やプライバシーにも配慮した声かけを行っている。また、入居者同士の相性にも気を配り、居心地よくフロアで過ごせる工夫をしている。	周囲の事を気にするあまり体調を崩す人には、職員がしっかりと関わるようにしている。食事の場面でも他の利用者からの目線を遮るような工夫がしてあった。利用者間の摩擦回避の為、試行錯誤しながら席の配置をし、一人ひとりを尊重するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人や家族に好みをや趣味を尋ね、日常生活の中で取り組めるよう支援している。また散歩、外出、外食、買い物等も希望を引き出せるよう関わりをもっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の意思を尊重できるよう訴えを傾聴し、居心地の良い場所を見つけられるように支援している。また、個別に散歩や、外出等をとり入れ、気分転換を図っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が好む服の組み合わせを選んだり、季節によって衣類の調整も行っている。個別で、美容院にも出かけたり、散髪のボランティアの受け入れの行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士による基本の献立はあるが、入居者が希望する料理を作ったり、食べたいものがあれば購入している。季節感を味わえる工夫をし、調理、盛り付け、片付けも分担して一緒に行っている。おせち料理作りは毎年定着している。	今日の昼食がたこ焼きだったユニットでは、手慣れた手つきで利用者がお手伝いし、エプロン姿で職員と一緒に台所で立ち働いている人もいる。別のユニットでは職員が調理した料理を利用者の性格や状態に配慮した席でそれぞれ食べていた。共に職員と利用者の会話も飛び交い和やかな雰囲気の良い食事光景で、このホームでの一番の幸せを感じた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、おやつの際には、水分・汁物を無理なく飲んでいただくよう言葉かけをし、個々に合った食事量・1日の水分摂取量を把握し管理している。又、その方に合った食事形態を支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前には嚥下体操を行い嚥下機能保持を支援している。食後は口腔ケアを行い、自力で出来る方にはご自分で口腔ケアを行って頂き、できない所を職員が介助している。協力歯科医、歯科衛生士に食事形態や口腔ケア方法について指導を仰いでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者にあった排泄ケアを行っている。昼間定時のトイレ誘導を行い、トイレでの排泄が維持できるように支援している。夜間も個々に統一してトイレ誘導、パット更新を行い、不快なく入眠出来るよう支援している。	排泄が自立の人は4名。状態によって紙パンツやパットの組み合わせがそれぞれに違うが、夜間はポータブルトイレ使用の人もいる。入居した時はリハビリパンツにパットだった人がリハビリパンツのみになり、排泄が改善した例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含む食品を献立に取り入れ、冷たい牛乳やヨーグルトを提供し、出来る限り自然な排便を促すようにしている。また散歩や運動中心のレクリエーションもとり入れ、便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に3回入浴日を決めているが、入居者の思いにより、入浴日以外の入浴も可能である。拒否の強い入居者も職員の関わりかた、声かけの工夫で気持ちよく入浴できるようになってきている。成功例の共有のしっかり行っている。	見守りはするがほぼ自立の人、車椅子の人は2人介助やシャワー浴で等、その人の状態で入浴の仕方も異なるが、「気持ち良かった」と言ってくれるのを目標にチームで取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の生活リズムに合わせた、入眠時間のタイミングや会話、声かけ等の支援を行なっている。両ユニットとも、昼食後1時間程度のお昼寝タイムを作り、必要な方には取り入れ、午後からも活動的に過ごせるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方、薬の名前・用法についてその都度理解・確認している。新しい薬が処方されたときは、主治医・ご家族に状態等を伝え、看護師より職員に情報を周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の方が、家事作業は得意とされ、積極的に行っている。手芸や生花、貼り絵等を職員と一緒に作成し、文化展に出展する目標を持ち取り組んでいる。個々の思い、レベルにあった内容のものを提供していくことで、無理なく楽しみながら、取り組めるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や外食、美容院等の個別対応や、各ユニットでの外出行事も年数回行っている。お花見などはご家族の参加もお願いし、楽しい時間を共有している。また周辺を散歩することで四季を味わい気分転換を図っている。	ユニット毎で行き先は違うが、非日常を味わってもらおうとそれぞれ計画を立て、春は花見、初夏は紫陽花、バラ、秋は菊花展等の見学を兼ねてドライブや外食、喫茶店等に行っている。個別の外出では墓参りや買い物等の支援をし、天気の良い日の散歩は日課になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の紛失・トラブルが起きないように、入居者に合わせた支援を行なっている。家族よりお金を預かっている事を伝え、好きなものを購入できることを説明し、いつでも好きな物を購入出来る態勢を整えている。毎週月曜に来るパンやさんでのパンの購入も、楽しみのひとつである。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者から、ご家族や知人に電話をかけたいとの申し出があれば、応じている。年賀状や暑中お見舞いなどご家族や知人とのやり取りを行なえるよう支援している。プレゼント等が届いたときにも、御礼を直接お電話で伝えられるよう、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝、居室・フロアー・玄関等の掃除、夜もフロアーの掃除はかかさず行っている。また壁面には毎月、入居者と一緒に製作した季節を感じることでできる作品を掲示している。玄関には、入居者が作った作品を展示していることもある。	リビングの外のベランダからは、田園風景が拡がり開放感に溢れている。畳コーナーには7段飾りのお雛様が飾ってあり季節感が感じられ、習字、貼り絵等の作品がリビングや廊下に展示してある。テーブルと椅子の配置にも、利用者間の人間関係を円滑にする為の工夫がしてあり、居心地良く過ごせるようにしてあった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーでの席を配慮し、基本、気の合う入居者と過ごせるようにしている。トラブルや不都合が起きた際には、迅速に席替え等で不穏なく過ごせるよう対応している。入居者の気分や体調にあわせて、移動等居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には、使い慣れた馴染みのあるものを持って来て頂き、落ち着いて生活出来るように支援している。自宅で使用していたソファを持参し、親戚が面会に来た時に使用している入居者もいる。	自室を案内して見せてくれた人は、知人にプレゼントされたベッドカバーや家族の写真、お気に入りの置き物等を説明してくれ、転倒予防の為に室内にポールを設置してある居室もあった。テレビ・仏壇・タンス等を持ち込んで、家庭の延長線のような環境を大切にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者のその日の体調、思いに寄り添い一緒に料理・洗濯・掃除等を行い、助け合い役割を持って協力して生活する事を工夫して支援している。		